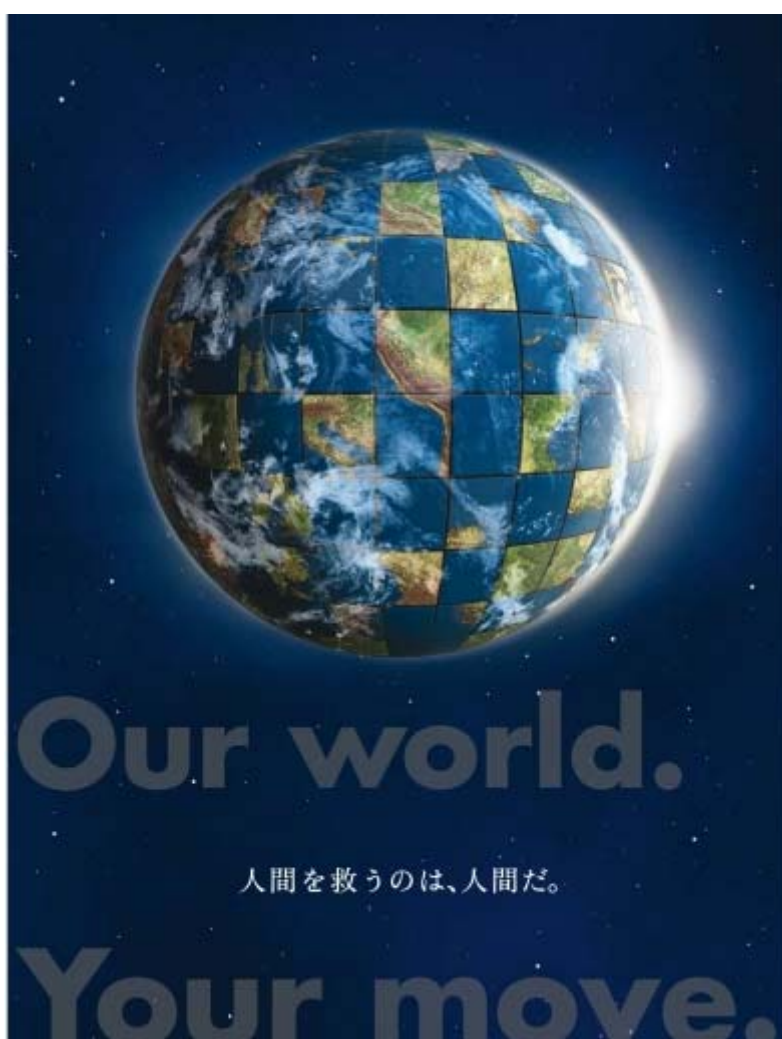


平成25年度
事業年報



赤十字基本原則

〔1965年ウィーンで開催された
第20回赤十字国際会議決議〕

第20回赤十字国際会議は、赤十字の活動の基礎である次の基本原則を宣言する。

人道 (*Humanity*)

赤十字・赤新月運動（以下、赤十字・赤新月）は、戦場において差別なく負傷者に救護を与えたいという願いから生まれ、あらゆる状況下において人間の苦痛を予防し軽減することに、国際的及び国内的に努力する。その目的は生命と健康を守り、人間の尊重を確保することにある。赤十字・赤新月はすべての国民間の相互理解、友情、協力及び堅固な平和を助長する。

公平 (*Impartiality*)

赤十字・赤新月は国籍、人種、宗教、社会的地位、または政治上の意見によるいかなる差別をもしない。赤十字・赤新月はただ苦痛の度合いに従って個人を救うことに努め、その際、最も急を要する困苦をまっさきに取り扱う。

中立 (*Neutrality*)

すべての人からいつも信頼を受けるために、赤十字・赤新月は戦闘行為の時にずれの側にも加わることを控え、いかなる場合にも、政治的、人種的、宗教的または思想的性格の紛争には参加しない。

独立 (*Independence*)

赤十字・赤新月は独立である。各国赤十字・赤新月社は、その国の政府の人道的事業補助者であり、その国の法律に従うが、常に赤十字・赤新月の諸原則に従って行動できるようにその自主性を保たなければならない。

奉仕 (*Voluntary Service*)

赤十字・赤新月は、利益を求めない奉仕的救護組織である。

単一 (*Unity*)

いかなる国にもただ一つの赤十字・赤新月社しかありえない。赤十字・赤新月社はすべての人に門戸を開き、その国の全領土にわたって人道的事業を行わなければならない。

世界性 (*Universality*)

赤十字・赤新月は世界的機構であり、その中においてすべての赤十字・赤新月社は同等の権利を持ち、相互援助の義務を持つ。

目 次

1	災害救護事業	1
2	講習普及事業	7
3	赤十字奉仕団	12
4	青少年赤十字	21
5	社会福祉事業	25
6	国際活動	26
7	社業振興	27
8	広報活動	31
9	評議員会及び監査	33
10	医療事業	34
11	血液事業	36
12	会 計	38
	付 録	40

1 災害救護事業

(1) 救護体制の現況

災害の発生に際し、直ちに医療救護活動ができるよう救護要員を登録しています。

日本赤十字社では、常設医療救護班を全国で 434 個班編成しており、そのうち鳥取県内(当支部)では 5 個班を編成しています。

ア 救護班の編成基準

(単位:人)

医師(班長)	看護師長	看護師	主事	計
1	1	2	2	6

イ 救護要員の登録状況

(単位:人)

	災害対策本部要員	現地災害対策要員	救護班要員 (常設救護班として5個班を登録)								血液供給要員	合計
			医師	看護師長	看護師	主事	助産師	薬剤師	小計			
支部	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
病院	3	0	5	5	10	10	再掲1	2	32	0	35	
血液センター	2	0	0	0	0	2	0	0	2	1	5	
合計	8	4	5	5	10	12	再掲1	2	34	1	47	

(平成26年3月31日現在)

(2)災害救護訓練等

ア 自治体等主催救護訓練

名称	実施日	会場	参加者
千代川水防演習	平成25年6月2日	千代川河川敷	医師2名 看護師長1名 看護師2名 主事3名 災害対策 本部要員3名 血液供給要員 2名
広域医療搬送(9/1)訓練	平成25年8月31日	名古屋飛行場他	医師1名 看護師2名 主事1名
鳥取市総合防災訓練	平成25年9月10日	鳥取市立 美保小学校他	医師2名 看護師長1名 看護師2名 主事3名 災害対策 本部要員3名
鳥取空港消火・救難訓練 (DMAT)	平成25年10月26日	鳥取空港	医師1名 看護師3名 主事2名
鳥取市国民保護訓練	平成25年10月28日	鳥取市立 国府東小学校	災害対策 本部要員1名
総合事故対応訓練(DMAT)	平成25年10月29日	JR西日本 西鳥取車両支部	医師1名 看護師2名 主事2名
中国地区DMAT連絡協議会 合同(実働)訓練	平成25年11月9~10日	広島空港他	医師1名 看護師2名 主事1名

イ 救護員養成のための研修

名称	実施日	主催者	参加者
平成25年度第2回 災害派遣医療チーム研修	平成25年6月19日～22日	厚生労働省	主事2名
平成25年度第2回中国・四国 ブロック災害派遣医療チーム (DMAT)ロジスティクス研修	平成25年8月24日～25日	厚生労働省	看護師5名 主事5名
平成25年度第2回中国・四国 ブロック災害派遣医療チーム (DMAT)技能維持研修	平成25年8月24日～25日	厚生労働省	看護師7名 主事5名
平成25年度鳥取県 DMAT養成研修	平成25年12月6日～7日	鳥取県	看護師2名 主事2名
平成25年度統括DMAT研修	平成26年1月20日～21日	厚生労働省	医師1名
平成25年度鳥取県 災害医療コーディネーター研修	平成26年2月1日	鳥取県	災害対策 本部要員1名
平成25年度第17回 災害派遣医療チーム研修	平成26年2月3日～5日	厚生労働省	看護師1名 主事1名
平成25年度第19回 災害派遣医療チーム研修	平成26年3月16日～19日	厚生労働省	看護師1名

ウ 日赤主催研修会等

名称	実施日	主催者	参加者
救護員研修会	平成25年4月10日	鳥取県支部	医師3名 看護師長5名 看護師10名 主事11名 その他2名
こころのケア研修会	平成25年6月15日	鳥取県支部	看護師長1名 看護師4名 主事8名
こころのケア指導者 養成研修会	平成25年6月22日～24日	本社	災害対策 本部要員1名
全国赤十字救護班研修会 (第1回)	平成25年7月6日～8日	本社	医師1名 看護師1名 主事3名
救護員としての看護師研修 (対象:1年目)	平成25年9月13日 9月27日	鳥取赤十字病院	看護師25名
全国赤十字救護班研修会 (第2回)	平成25年9月14日～16日	本社	主事1名
救護員としての看護師研修 (対象:3年目)	平成25年10月9日～10日	鳥取赤十字病院	看護師15名
救護員主事研修会	平成25年10月12日	鳥取県支部	主事11名
救護員としての看護師研修 (対象:2年目)	平成25年10月18日 ～11月1日	鳥取赤十字病院	看護師9名
全国赤十字救護班研修会 (第3回)	平成25年11月2日～4日	本社	看護師1名 主事1名 災害対策 本部要員1名
第5ブロック災害対策 本部要員研修会	平成26年1月15日～16日	徳島県支部	災害対策 本部要員2名 その他2名

エ その他

名称	実施日	会場	参加者
第13回DMORT養成研修会 (日本DMORT研究会)	平成25年9月28日	兵庫県災害 医療センター	看護師1名

(3)災害救護用資機材保有状況

ア 災害救護資機材

品目	数量	品目	数量
医療セット	3	衛星電話	9
携帯型医療セット	3	固定電話(災害時優先)	7
テント	8	携帯電話(災害時優先)	1
エアテント	2	NBC災害除染セット	1
救護所用大型テント	1	移動式炊飯器	2
担架	20	発電機	3
担架架台	5	投光器	5
折畳寝台	20	浄水器	1

(平成26年3月31日現在)

イ 無線設備・機材

	品目	数量
基地局	157.73MHz	1
	415.2625MHz	1
移動局	157.73MHz	22
	415.2625MHz	24

(平成26年3月31日現在)

ウ 災害救護車両

(単位:台)

種別	数量
災害救援車	2
通信指令車	1
救護員輸送車	1
救急車	※1
ドクターカー	※1

(平成26年3月31日現在)

※鳥取赤十字病院保有

(4)臨時救護実施状況

地方公共団体や各種団体の行事、各種スポーツ大会等に救護員(看護師等)を派遣し、不慮の傷病者の救護を行っています。

派遣回数	派遣人数	取扱者数
57	116	84

(5)災害救援活動

災害救助法の適用基準に達しない火災等の災害が発生したときは、見舞い品を贈呈して罹災者を激励しています。

なお、平成25年度における見舞い品の備蓄・配布状況は次のとおりです。

ア 備蓄状況

物資名	備蓄場所		計
	支部	地区	
毛布(枚)	2,629	188	2,817
緊急セット(個)	900	108	1,008
安眠セット(個)	419	0	419
タオルセット(個)	167	89	256
鍋(個)	0	34	34

(平成26年3月31日現在)

イ 配布状況

地区名	世帯 (世帯)	人数 (人)	見舞品			
			毛布(枚)	緊急セット(個)	タオルセット(個)	鍋(個)
鳥取市	12	24	24	14	12	6
米子市	8	23	30	8	8	0
倉吉市	5	10	10	5	5	0
境港市	1	2	2	1	1	1
東 部	1	4	4	1	1	0
中 部	2	4	4	2	2	2
西 部	3	9	11	4	2	2
合 計	32	76	85	35	31	11

(6)国内義援金受付状況

被災地に設置される義援金配分委員会を通じて、全額が被災者に届けられます。

平成 25 年度鳥取県支部受付分

名 称	件数(件)	金額(円)
平成25年夏島根県西部大雨災害義援金	4	55,428
山口県平成25年7月28日大雨災害義援金	3	54,428
岩手県平成25年豪雨・大雨災害義援金	1	2,320
秋 田 県 大 雨 災 害 義 援 金	1	2,320
埼 玉 県 台 風 1 8 号 災 害 義 援 金	1	997
平成25年9月京都府台風18号災害義援金	1	997
伊豆大島等台風26号災害東京都義援金	4	134,924
東 日 本 大 震 災 義 援 金	223	7,257,450
合 計	238	7,508,864

2 講習普及事業

人間の苦痛を予防・軽減し、生命の尊重を確保するという赤十字の理念のもと、「救急法」「水上安全法」「健康生活支援講習」「幼児安全法」の講習会を開催しています。これらの講習は、命と健康を守る知識や技術を普及し、事故防止の思想を涵養するだけでなく、ボランティア精神を育み、広く赤十字の理解者、協力者を増やす機会ともなっています。

(1)概況

ア 実施回数

(単位:回)

	平成25年度	平成24年度	平成23年度
救 急 法	146	182	151
水 上 安 全 法	27	21	30
幼 児 安 全 法	26	14	18
健 康 生 活 支 援 講 習	23	21	21
資 格 継 続 研 修	10	6	7
合 計	232	244	227

イ 受講者数

(単位:人)

	平成25年度	平成24年度	平成23年度
救 急 法	4,306	8,360	3,808
水 上 安 全 法	1,317	888	1,149
幼 児 安 全 法	472	186	310
健 康 生 活 支 援 講 習	422	496	596
資 格 継 続 研 修	115	71	64
合 計	6,632	10,001	5,927

(2)救急法講習

一人ひとりが安全で健康的な生活を送ることができるように、けが人や急病人を正しく救助し、医師等に引き渡すまでの救命手当及び応急手当の講習を実施しています。

ア 実施回数

(単位:回)

	平成25年度	平成24年度	平成23年度
基 礎 講 習	16	18	19
救 急 員 養 成 講 習	10	12	15
短 期 講 習	120	152	117
合 計	146	182	151

イ 受講者数

(単位:人)

	平成25年度	平成24年度	平成23年度
基礎講習	358	382	351
救急員養成講習	230	241	261
短期講習	3,718	7,737	3,196
合計	4,306	8,360	3,808

(3)水上安全法講習

水を活用して健康の増進を図り、水の事故から生命を守るため、「水の事故防止」、「泳ぎの基本」、「溺者の救助」等の知識や技術についての講習を実施しています。

ア 実施回数

(単位:回)

	平成25年度	平成24年度	平成23年度
救助員養成講習Ⅰ	1	1	1
救助員養成講習Ⅱ	1	0	1
短期講習	25	20	28
合計	27	21	30

イ 受講者数

(単位:人)

	平成25年度	平成24年度	平成23年度
救助員養成講習Ⅰ	16	15	14
救助員養成講習Ⅱ	11	0	12
短期講習	1,290	873	1,123
合計	1,317	888	1,149

(4)幼児安全法講習

社会の財産である子供を大切に育てるために、子供に起こりやすい事故に対する救命手当・応急手当と事故予防、家庭内での看病の方法についての知識や技術の講習を実施しています。

ア 実施回数

(単位:回)

	平成25年度	平成24年度	平成23年度
支援員養成講習	2	2	1
短期講習	24	12	17
合計	26	14	18

イ 受講者数

(単位:人)

	平成25年度	平成24年度	平成23年度
支援員養成講習	28	13	6
短期講習	444	173	304
合計	472	186	310

(5)健康生活支援講習

日本赤十字社では、高齢者の自立をめざした介護に焦点をあてた「赤十字家庭看護法」を実施してきましたが、社会の関心が家族の介護から自分自身の健康増進・介護予防へ移ってきていることや、社会全体で高齢者の支援や介護をして助け合う時代になっていることを踏まえ、これまでの家庭看護法の見直しを行い、「赤十字健康生活支援講習」と名称変更した講習を平成21年度より開始しています。

ア 実施回数

(単位:回)

	平成25年度	平成24年度	平成23年度
支援員養成講習	3	3	2
短期講習	20	18	19
合計	23	21	21

イ 受講者数

(単位:人)

	平成25年度	平成24年度	平成23年度
支援員養成講習	98	127	163
短期講習	324	369	433
合計	422	496	596

(6)防災啓発プログラム

日本赤十字社では、東日本大震災などの災害から学んだ知識や教訓を今後の備えとして多くの方に知っていただくために、「赤十字防災啓発プログラム」を平成24年度からスタートしました。このプログラムが、町内・自治会を中心とする「地域」や「家庭」で、防災について考えていただくためのきっかけづくりになることを目標としています。

	実施回数(回)	受講者数(人)
防災啓発プログラム	8	449

(7)救急法救急員等資格継続研修

救急員等の資格を取得後2年以上3年未満の方を対象に、資格の有効期限(取得日から3年間)を3年間延長することができる研修を実施しています。

ア 実施回数

(単位:回)

	平成25年度	平成24年度	平成23年度
救 急 法	7	4	4
水 上 安 全 法	1	1	1
幼 児 安 全 法	1	1	1
健 康 生 活 支 援 講 習	1	0	1
合 計	10	6	7

イ 受講者数

(単位:人)

	平成25年度	平成24年度	平成23年度
救 急 法	95	57	51
水 上 安 全 法	8	11	4
幼 児 安 全 法	2	3	4
健 康 生 活 支 援 講 習	10	0	5
合 計	115	71	64

(8)指導員養成講習

赤十字の基本理念である「人道」を具体的な知識や技術として一般の人々に広めるために、各種講習を担当する指導員を養成しています。

	実施回数(回)	受講者数(人)	新指導員数(人)
健 康 生 活 支 援 講 習	1	2	2
健 康 生 活 支 援 講 習 一 般	1	9	8

(9)指導員技術研修会

ア 救急法・幼児安全法指導員技術研修会

開 催 日	平成26年3月9日(日)、15日(土)
会 場	伯耆しあわせの郷、鳥取県立福祉人材研修センター

イ 水上安全法指導員技術研修会

開 催 日	平成25年6月2日(日)～3日(月)
会 場	鳥取大学

(10)指導員登録数

(単位:人)

	平成25年度	平成24年度	平成23年度
救 急 法 指 導 員	78	78	72
水 上 安 全 法 指 導 員	25	25	21
幼 児 安 全 法 指 導 員	40	40	36
健康生活支援講習指導員	15	15	15
合 計	158	158	144

(各年度3月31日現在)

(11)ワールド・ファーストエイド・デー (世界救急法デー)イベント

開 催 日	平成25年9月14日(土)
会 場	イオンモール鳥取北
参 加 者 数	40名程度
内 容	心肺蘇生デモンストレーション、救命手当体験コーナー

(12)各種研修会等

名称	開催日	会場
赤 十 字 講 習 担 当 者 会 議	平成25年5月16日(木) ~17日(金)	本社
赤 十 字 救 急 法 講 師 研 修 会	平成25年11月15日	本社
第5ブロック救急法等指導員研修会	平成26年1月20日(月) ~21日(火)	愛媛県支部
健康生活支援講習・幼児安全法合同講師研修会	平成26年1月27日(月) ~29日(水)	本社
赤 十 字 水 上 安 全 法 講 師 研 修 会	平成26年2月27日(木) ~28日(金)	神奈川県 ライトセンター

3 赤十字奉仕団

赤十字奉仕団は、赤十字の精神のもとに、赤十字の使命とする人道的な諸活動を実践しようとする人々が集まって結成されたボランティアの組織であり、赤十字事業推進の基礎として重要な役割を果たしています。

赤十字奉仕団には、市町村毎に組織されている「地域奉仕団」、社会人や学生で組織されている「青年(学生)奉仕団」、専門技術をもった人たちで組織されている「特殊奉仕団」があります。

(1)赤十字奉仕団鳥取県支部委員会

ボランティア活動の健全な発展と奉仕団の円滑な運営のために、各奉仕団から選出された委員による委員会が組織されています。

ア 委員長等

役職	氏名	所属奉仕団
委員長	吉田 慶子	鳥取市赤十字奉仕団
副委員長	金田 千義	鳥取県西部安全赤十字奉仕団
	吉田 綱司	点訳・朗読うつぶき赤十字奉仕団
	浜崎 良子	アイメート赤十字奉仕団

(平成26年3月31日現在)

イ 委員

役職	氏名	所属奉仕団
指導講師	吉田 慶子	鳥取市赤十字奉仕団
	金田 千義	鳥取県西部安全赤十字奉仕団
	吉田 綱司	点訳・朗読うつぶき赤十字奉仕団
	浜崎 良子	アイメート赤十字奉仕団
	山内 都子	八頭町郡家赤十字奉仕団
	中本 紀子	琴浦町東伯赤十字奉仕団
	角 紀子	境港市赤十字奉仕団
	木村 瞳	鳥取市国府町赤十字奉仕団
	伊田 美千代	境港市赤十字奉仕団
	平岩 萬亀子	琴浦町東伯赤十字奉仕団
	榎本 京子	岩美町赤十字奉仕団
	田口 和子	米子市淀江町赤十字奉仕団

(平成26年3月31日現在)

(2)地域赤十字奉仕団

市町村ごとに結成され、赤十字思想の普及、災害救護活動、福祉活動等、地域に根差した活動を行っています。

ア 組織状況

(ア)東部地区

奉仕団	結成年月日	委員長	団員数 (人)
鳥取市赤十字奉仕団	S48.1.26	長石 啓子	53
鳥取市国府町赤十字奉仕団	S56.3.14	植田 公子	64
鳥取市福部町赤十字奉仕団	H9.4.19	若林 紘子	24
鳥取市河原町赤十字奉仕団	S50.9.16	九鬼 容子	59
鳥取市用瀬町赤十字奉仕団	S51.7.8	田中 満知子	135
鳥取市佐治町赤十字奉仕団	S54.4.1	前田 喜美子	36
鳥取市気高町赤十字奉仕団	S55.5.2	村上 和子	29
鳥取市鹿野町赤十字奉仕団	S53.1.16	今川 悦子	43
鳥取市青谷町赤十字奉仕団	S57.4.12	田中 佐和子	33
岩美町赤十字奉仕団	S52.6.29	榎本 京子	83
八頭町郡家赤十字奉仕団	S49.6.18	平木 智子	86
八頭町船岡赤十字奉仕団	S59.7.18	西村 由利恵	80
八頭町八東赤十字奉仕団	H5.7.30	角脇 志津子	44
若桜町赤十字奉仕団	H5.6.1	坂本 信子	50
智頭町赤十字奉仕団	S58.12.8	大呂 弘子	34
合計 15団			853人

(平成26年3月31日現在)

(イ)中部地区

奉仕団	結成年月日	委員長	団員数 (人)
倉吉市赤十字奉仕団	H3.2.26	藤原 節	40
倉吉市関金町赤十字奉仕団	H9.8.21	竹田 律子	28
湯梨浜町羽合赤十字奉仕団	H9.8.29	中川 はるこ	34
湯梨浜町泊赤十字奉仕団	H8.4.22	小林 暄子	45
湯梨浜町東郷赤十字奉仕団	H8.3.21	松村 康子	39
三朝町赤十字奉仕団	H8.2.13	米田 親史	35
北栄町北条赤十字奉仕団	H1.10.27	山下 正子	60
北栄町大栄赤十字奉仕団	H3.2.7	飯田 鈴子	118
琴浦町東伯赤十字奉仕団	S61.5.7	岩崎 睦枝	130
琴浦町赤碕赤十字奉仕団	H6.7.4	松岡 玉枝	65
合計 10団			594人

(平成26年3月31日現在)

(ウ)西部地区

奉仕団	結成年月日	委員長	団員数 (人)
米子市赤十字奉仕団	H7.10.1	岡田 信行	27
米子市淀江町赤十字奉仕団	H7.4.28	田口 和子	60
境港市赤十字奉仕団	H3.6.28	伊東 征子	68
南部町赤十字奉仕団	H10.1.26	坂本 篤美	73
伯耆町岸本赤十字奉仕団	H7.1.17	西尾 智恵子	38
伯耆町溝口赤十字奉仕団	H6.11.24	竹村 純子	21
日吉津村赤十字奉仕団	H10.10.9	橋田 英明	21
大山町大山赤十字奉仕団	H8.10.11	黒田 ノリ子	31
大山町名和赤十字奉仕団	H3.12.1	船越 愛二郎	25
大山町中山赤十字奉仕団	S63.5.10	杉森 研一	32
日南町赤十字奉仕団	H10.5.27	倉間 喜與子	35
日野町赤十字奉仕団	H10.7.8	船越 伸子	49
江府町赤十字奉仕団	H6.11.21	竹内 景子	36
合計 13団			516人

(平成26年3月31日現在)

(3)特殊赤十字奉仕団

様々な専門技術をもった人々で組織され、赤十字事業への協力のほか、その技術を活かし、広く一般に普及し県民の安全と福祉の向上に貢献しています。

ア 組織状況

奉仕団	結成年月日	委員長	団員数 (人)
鳥取アマチュア無線赤十字奉仕団	S40.1.16	漆原 信一	23
米子アマチュア無線赤十字奉仕団	S41.4.17	野口 順次	44
倉吉アマチュア無線赤十字奉仕団	H5.10.9	磯 江 晃	15
鳥取県東部安全赤十字奉仕団	H20.3.9	国広 生久代	32
鳥取県中部安全赤十字奉仕団	H20.3.9	徳 山 誠	17
鳥取県西部安全赤十字奉仕団	H20.3.9	金田 千義	27
鳥取東部看護赤十字奉仕団	H2.5.18	谷口 三枝	18
中部看護赤十字奉仕団	H5.4.21	水口 敏子	5
西部看護赤十字奉仕団	H8.3.26	加藤 節子	16
点訳・朗読うつぶき赤十字奉仕団	S48.3.24	吉田 綱司	48
アイメート赤十字奉仕団	S54.5.26	北谷 由紀子	50
百舌の会赤十字奉仕団	S59.10.2	片山 洋子	9
病院ボランティア赤十字奉仕団	H7.11.6	前田 キク子	54
鳥取県青少年赤十字賛助奉仕団	H15.6.28	福原 則昭	16
合計 14団			374人

(平成26年3月31日現在)

(4) 青年学生赤十字奉仕団

奉仕団の中でも、とりわけ時代を担う青年層の社会人、学生で組織され、献血推進、災害救護活動、社会福祉施設の訪問等の活動を行っており、赤十字におけるパイオニアとしての役割を果たしています。

ア 組織状況

奉仕団	結成年月日	委員長	団員数 (人)
鳥取学生赤十字奉仕団	S36.3.10	新居 陽太	55
保育専門学院赤十字奉仕団	H18.7.15	久米本 美紗	37
米子青年赤十字奉仕団	H7.10.15	清水 静華	10
合計 3団			102人

(平成26年3月31日現在)

イ 鳥取県青年(学生)奉仕団連絡協議会

鳥取県支部管内の青年学生赤十字奉仕団の発展と円滑な運営を期するために組織され、団員から選出された役員を中心に会議を開催するほか、研修会や協働活動を通じて団員のスキルアップ、団結力の向上に努めています。

(5) 各種委員会・会議等

ア 指導講師研究会

(単位:人)

	開催日	会場	参加者数	内容
第1回	平成25年5月24日	鳥取県支部 奉仕団室	12	・委員長研修会について ・基礎研修会について
第2回	平成25年8月22日	鳥取県支部 奉仕団室	8	・リーダーシップ研修会について ・奉仕団による社資募集について
第3回	平成25年10月4日	鳥取県支部 奉仕団室	8	・リーダーシップ研修会について ・支部委員会について
第4回	平成26年2月6日	鳥取県支部 奉仕団室	9	・役員改選について ・指導講師について ・支部委員会について

イ 第1回赤十字奉仕団鳥取県支部委員会常任委員会・幹事会

(単位:人)

開催日	会場	参加者数	内容
平成25年12月9日	上井公民館	常任委員 14 支 部 1	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度奉仕団事業中間報告 ・平成26年度奉仕団事業計画 ・支部委員会について ・役員改選

ウ 赤十字奉仕団鳥取県支部委員会

(単位:人)

開催日	会場	参加者数	内容
平成26年3月5日	新日本海新聞社 中部本社	奉 仕 団 54 支 部 6	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度事業実施報告 ・平成26年度事業計画 ・役員改選

エ 防災ボランティア・リーダー会議

(単位:人)

開催日	会場	参加者数	内容
平成26年1月26日	倉吉未来中心	リ ー ダ ー 9 支 部 3	<ul style="list-style-type: none"> ・防災ボランティアについて ・今後の活動推進策について ・防災ボランティア研修の協力依頼 ・大型救護テントの設営

オ 赤十字奉仕団中央委員会(本社主催)

(単位:人)

開催日	会場	参加者数	内容
平成25年6月4日～5日	本社	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック奉仕団委員長会議報告 ・事例発表 ・分科会 ・全体会 <p style="text-align: right;">等</p>

カ 全国青少年賛助奉仕団協議会(本社主催)

(単位:人)

開催日	会場	参加者数	内容
平成25年7月4日～5日	本社	1	<ul style="list-style-type: none"> ・役員改選 ・平成24年度事業報告・決算 ・平成25年度事業計画・予算案 ・創立50周年記念事業について
平成26年3月6日～7日	本社	1	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度会計報告 ・平成26年度役員会総会に向けて

キ 東日本大震災教育支援事業—サマーキャンプ 2013 in クロスヴィレッジ(本社主催)

(単位:人)

開催日	会場	参加者数	内容
平成25年8月8日～12日	北海道ルスツリゾート (北海道)	1	・東日本大震災で被災した岩手県・宮城県・福島県在住の小・中学生を対象としたサポートプログラムの運営補助
平成25年8月11日～15日		1	

ク 第5ブロック青年赤十字奉仕団連絡協議会

(単位:人)

開催日	会場	参加者数	内容
平成25年6月15日～16日	香川県社会福祉総合センター (香川県)	奉仕団 5 支部 1	・HIV/AIDS予防啓発活動 ・東日本大震災への支援活動

ケ 第5ブロック青年赤十字奉仕団研修会

(単位:人)

開催日	会場	参加者数	内容
平成25年8月16日～18日	友愛の丘 (岡山県)	3	・赤十字の歴史や基本理念 ・非常食の炊き出し ・赤十字救急法 等

コ 中国・四国ブロック青少年赤十字賛助奉仕団連絡協議会・研修会

(単位:人)

開催日	会場	参加者数	内容
平成25年10月3日～4日	広島市文化交流会館 (広島県)	1	・実践報告 ・赤十字関係施設見学

サ 中国・四国ブロック赤十字奉仕団協議会

(単位:人)

開催日	会場	参加者数	内容
平成25年11月14日 ～15日	ホテルニュータナカ (山口県)	奉仕団 1 支部 1	・大規模災害に備えた奉仕団活動 ・社資募集、社員増強 ・青少年赤十字との関わり

(6)各種奉仕団研修会

ア 赤十字奉仕団基礎研修会

(単位:人)

	開催日	会場	参加者数	内容
東部	平成25年9月29日	気高町中央公民館	75	・DVD視聴 ・フィールドワーク
中部	平成25年10月26日	湯梨浜町 中央公民館	84	・DVD視聴 ・防災啓発プログラム ・グループワーク
西部	平成25年9月1日	ふれあいの里	81	・DVD視聴 ・防災啓発プログラム ・グループワーク

イ 赤十字奉仕団委員長研修会

(単位:人)

開催日	会場	参加者数	内容
平成25年6月28日～29日	徳島県	奉仕団 21 支部 3	・徳島県支部奉仕団との交流 ・赤十字ゆかりの地視察

ウ 鳥取県青年(学生)赤十字奉仕団連絡協議会研修会

(単位:人)

開催日	会場	参加者数	内容
平成25年11月2日～3日	湯梨浜町立 青少年の家	奉仕団 20 支部 1	・赤十字救急法基礎講習 ・グループワーク ・ハイゼックス炊飯など

エ 赤十字ボランティアリーダーシップ研修会

(単位:人)

開催日	会場	参加者数	内容
平成25年10月31日 ～11月1日	国民宿舎 水明荘	奉仕団 23 指導講師 8 支部 3	・日本赤十字社の事業について ・グループとリーダーシップ ・奉仕団活動を活発化するには

オ 防災ボランティア研修会

(単位:人)

開催日	会場	参加者数	内容
平成26年1月26日	倉吉未来中心	ボランティア64 リーダー 10 支 部 4	・救護所体験 ・グループワーク ・救護資材の見学

カ 防災ボランティアリーダー養成研修会(本社主催)

(単位:人)

開催日	会場	参加者数	内容
平成25年4月27日～28日	本社	2	・赤十字防災ボランティアの活動体制について ・第三者評価による赤十字防災ボランティア 等

キ HIV/AIDSピア・リーダー養成研修会(本社主催)

(単位:人)

開催日	会場	参加者数	内容
平成25年8月23日～24日	YMCA東山荘 (静岡県)	1	・HIV/AIDS の基礎知識について ・ピア・エデュケーションによる学習 ・ピア・エデュケーションの模擬実践 ・予防啓発にかかる活動計画立案

ク 赤十字ボランティアリーダー養成研修会(青奉)(本社主催)

(単位:人)

開催日	会場	参加者数	内容
平成25年8月24日～26日	YMCA東山荘 (静岡県)	1	・赤十字と青年赤十字奉仕団 ・国際人道法 ・ワークショップ 等

ケ 赤十字ボランティアリーダー養成研修会(地域・特殊奉仕団)(本社主催)

(単位:人)

開催日	会場	参加者数	内容
平成25年9月13日～15日	YMCA東山荘 (静岡県)	1	・奉仕団活動の活性化のために ・グループとリーダー ・災害と赤十字ボランティア

コ 赤十字奉仕団支部委員会指導講師研修会(本社主催)

(単位:人)

開催日	会場	参加者数	内容
平成26年2月12日～14日	湘南国際村センター (神奈川県)	1	・赤十字救急法基礎講習 ・赤十字防災啓発プログラム

サ 中国・四国ブロック赤十字奉仕団研修会

(単位:人)

開催日	会場	参加者数	内容
平成25年11月20日 ～22日	休暇村 讃岐五色台 (香川県)	1	・赤十字と赤十字奉仕団 ・災害時の奉仕団活動 ・避難所運営ゲーム

(7)奉仕団特別事業

ア わくわく中学職場体験受入れ事業

(単位:人)

学校名	期間	人数	協力
鳥取市立東中学校	平成26年5月13日 ～17日	3	鳥取市赤十字奉仕団 鳥取赤十字病院 鳥取県赤十字血液センター
鳥取市立北中学校	平成26年6月25日 ～28日	6	
鳥取市立国府中学校	平成26年6月25日 ～28日	4	
鳥取市立西中学校	平成26年7月1日 ～5日	6	

イ ゆうゆうキャンプ(青年赤十字奉仕団共催)

(単位:人)

開催日	会場	参加者数	内容
平成25年8月3日～5日	鳥取砂丘 こどもの国 キャンプ場	子 供 31 奉 仕 団 27 職 員 5 そ の 他 2	児童養護施設、東部地区の小 学生を招聘したキャンプ

(8)モデル奉仕団

赤十字事業の推進には、奉仕団活動に期待するところが大きく、奉仕団活動をより充実させ活発化させていくことを目的として、モデル奉仕団を指定し、効果的な奉仕団活動のすすめ方を探求しています。

奉仕団名	活動内容
鳥取市赤十字奉仕団	テーマ: 献血活動 ・イオンモールでの献血の呼びかけ ・献血者へのプレゼントづくり ・講演会「献血ができる体づくり」受講 ・広島赤十字プラザ見学
北栄町大栄赤十字奉仕団	テーマ: 若年層向けの活動 ・鳥取中央育英高校JRCとの炊き出し交流 ・鳥取中央育英高校JRCとの団員募集のチラシ配り

(平成24～25年度指定)

4 青少年赤十字

青少年赤十字は、児童・生徒が赤十字の精神に基づき、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、日常生活の中での実践活動を通じて、いのちと健康を大切に、地域社会や世界のために奉仕し、世界の人々との友好親善の精神を育成することを目的として、様々な活動を学校教育の中で展開しています。

(1) 加盟登録状況

ア 校種別加盟数

		平成25年度	平成24年度	平成23年度
加盟学校	幼稚園・保育園 (園)	2	3	4
	小学校 (校)	7	6	5
	中学校 (校)	5	5	5
	高等学校 (校)	7	9	10
	小計 (校)	21	23	24
グループ加盟学級	幼稚園・保育園 (級)	6	17	29
	小学校 (級)	73	67	60
	中学校 (級)	52	48	51
	高等学校 (級)	7	9	34
	小計 (級)	138	141	174
加盟児童・生徒	幼稚園・保育園 (人)	139	350	635
	小学校 (人)	1,439	1,461	1,428
	中学校 (人)	1,260	1,258	1,280
	高等学校 (人)	84	67	90
	小計 (人)	2,922	3,136	3,433

(各年度3月31日現在)

イ 加盟形態別加盟数

	全校(園)加盟	学年・級・部加盟	計
幼稚園・保育園	1	1	2
小学校	6	1	7
中学校	4	1	5
高等学校	0	7	7
合計	11	10	21

(2)各種委員会

ア 指導者関係

(ア)鳥取県支部青少年赤十字指導者顧問会(高校部会)

開催日	平成25年4月19日
会場	県立境港総合技術高等学校
参加者数	9人

(イ)全国青少年赤十字指導者協議会(本社主催)

開催日	平成25年6月27日～28日
会場	本社
参加者数	1人(指導者協議会長)

(ウ)第5ブロック各県青少年赤十字指導者協議会並びに青少年赤十字事務担当者会議

開催日	平成25年10月1日～2日
会場	島根県支部
参加者数	2人(指導者協議会長、鳥取県支部)

イ メンバー関係

(ア)西部地区高等学校青少年赤十字生徒代表者会議

開催日	平成25年5月12日
会場	ふれあいの里
参加者数	35人

(3)各種研修会

ア 指導者対象(校(園)長・教頭・教諭等)

(ア)本社主催

青少年赤十字リーダーシップトレーニングセンター指導者養成講習会

(単位:人)

開催日	会場	参加者数	内容
平成25年5月30日 ～6月2日	YMCA 東山荘 (静岡県)	1	青少年赤十字概要 具体的な指導技術

(イ)ブロック内主催

平成25年度広島県青少年赤十字指導者研修会(第1回)

(単位:人)

開催日	会場	参加者数	内容
平成25年6月8日～9日	広島県支部 (広島県)	1	青少年赤十字概要 国際人道法 他

イ メンバー対象(生徒・児童)

(ア)鳥取県支部主催

青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンター(小・中学校)

(単位:人)

校種	開催日	会場	参加者数
小学校	平成25年7月30日～31日	鳥取マリンクラブ大谷荘他	メンバー30 指導者 5 スタッフ6
中学校	平成25年7月29日～30日	中国・四国地区国立大学 大山共同研修所	メンバー30 指導者 13 スタッフ24

(イ)岡山県支部合同

a 青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンター(高等学校)

(単位:人)

校種	開催日	会場	参加者数
高等学校	平成25年8月9日～12日	閑谷学園(岡山県)	メンバー32 (内鳥取9) 指導者 10 (内鳥取1) スタッフ11

b 鳥取県・岡山県青少年赤十字高校生メンバー交流会

開催日	平成26年1月25日～26日
会場	岡山県青年館(岡山県)
参加者数	9人

(ウ)本社主催

青少年赤十字スタディー・センター

開催日	平成26年3月22日～27日
会場	東照館(山梨県)
参加者数	1人

(4)活動・行事等

ア 平成25年度鳥取県高等学校 JRC 交歓研修会

開催日	平成25年6月3日
会場	ふれあいの里
参加者数	74人

イ 平成 25 年度鳥取県高等学校防災研修会

開 催 日	平成25年12月21日
会 場	県立米子南高等学校
参 加 者 数	17人

ウ 手話講座(高等学校)

開 催 日	平成26年2月10日
会 場	県立鳥取中央育英高等学校
参 加 者 数	30人

(5) 青少年赤十字活動資金

ア 青少年赤十字活動資金(一円玉募金)

日本赤十字社では指導者の先生方と協議し、メンバーが集めた青少年赤十字活動資金を活用して、バングラデシュ、モンゴル、ネパールの3か国の子どもたちの教育や衛生環境の改善等を支援する事業を実施しています。

(単位:円)

学 校 名	金 額
鳥 取 県 立 米 子 東 高 等 学 校 J R C 部	1,334

5 社会福祉事業

当支部では、鳥取県が行う障がい者の社会参加促進事業の中で、視覚障がい者の福祉の増進を図るために、県内市町村の委託を受け、平成 25 年度から(昭和 46 年度から平成 24 年度までは鳥取県委託事業)県内東・中・西部それぞれの地域で「点訳・朗読奉仕員養成講習会」を行っています。

(1) 点訳奉仕員養成講習会

講習実施状況

	東部	中部	西部	合計
実施回数(回)	8	8	8	24
受講者数(人)	5	10	3	18
受講者数(延べ人数)(人)	37	45	14	96
修了者数(人)	5	2	1	8

(2) 朗読奉仕員養成講習会

講習実施状況

	東部	中部	西部	合計
実施回数(回)	8	8	8	24
受講者数(人)	23	26	11	60
受講者数(延べ人数)(人)	114	151	36	301
修了者数(人)	2	4	0	6

6 国際活動

絶え間なく起こる災害や紛争—それらは人々の尊い命や財産を一瞬にして奪い去ります。赤十字は、188 の国や地域に広がる世界的ネットワークを活かし、人々の苦痛を軽減し、予防するためのさまざまな活動を行っています。

(1) 国際救援活動

赤十字の国際救援は、赤十字国際委員会(ICRC)、国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)、そして当事国や援助国の赤十字社・赤新月社の協力関係のもとに実施されます。

(2) 開発協力事業

保健衛生事業や災害対策事業などに代表される「開発協力」は赤十字の重要な国際活動です。

第5ブロック支部の国際活動として、次の事業へ資金援助を行いました。

(単位:円)		
事業	内容	金額
アジア・大洋州 給水・衛生キット支援事業	災害時の給水・衛生活動のための 「給水・衛生キット」の調達・配備	556,281

(3) 海外救援金受付状況

本社を通じて、赤十字が行う国際救援活動や開発協力事業に活用されています。

平成 25 年度鳥取県支部受付分

名称	件数(件)	金額(円)
シリア人道危機救援金	1	100
2013年フィリピン台風救援金	49	1,221,671

(4) NHK海外たすけあい

毎年12月1日～25日に、日本放送協会、NHK厚生文化事業団と共同で実施しています。寄付金は、海外への緊急救援や開発協力のために活用しています。

	件数(件)	金額(円)
鳥取県支部	261	2,842,097

7 社業振興

日本赤十字社は、社員をもって組織され、人道的任務達成のため諸事業を推進しています。その財政基盤は、社員が毎年拠出する「社費」と一般からの「寄付金」により支えられています。（「社費」と「寄付金」を併せて『社資』といいます。）

赤十字思想を普及し、一人でも多くの人々により深く赤十字活動についての理解を得て、財政的な支援を求める運動を推進しました。

(1) 社資募集実績

〔一般社資〕 地区・分区の協力のもと、5月の「赤十字社員増強運動月間」を中心に趣旨を普及、社員の増強を図り一般社資の募集に努めた。

〔法人社資〕 県内の法人にダイレクトメール方式により事業資金の協力を呼びかけるなど、法人社資の募集に努めた。

ア 社資実績

(単位:円)

区分		目標額	実績額	達成率(%)	
一般社資	地区分区	市地区	60,703,000	54,197,350	89.3
		郡地区	22,607,000	21,951,586	97.1
	計	83,310,000	76,148,936	91.4	
	支部扱	5,950,000	12,292,323	206.6	
	合計	89,260,000	88,441,259	99.1	
法人社資		10,100,000	9,864,295	97.7	
病院建設募金		0	6,306,165	—	
合計		99,360,000	104,611,719	105.3	

イ 地区区分別実績

(単位:円)

地区区分名	目標額	実績額	達成率(%)	
鳥取市	26,863,000	24,893,220	92.7	
米子市	21,230,500	17,563,050	82.7	
倉吉市	7,315,500	7,318,500	100.0	
境港市	5,294,000	4,422,580	83.5	
市地区計	60,703,000	54,197,350	89.3	
東部地区	岩美町	1,815,500	1,841,600	101.4
	八頭町	2,491,000	2,492,500	100.1
	若桜町	612,000	612,600	100.1
	智頭町	1,146,500	1,167,400	101.8
	計	6,065,000	6,114,100	100.8
中部地区	湯梨浜町	2,533,500	2,096,554	82.8
	三朝町	1,084,000	995,500	91.8
	北栄町	2,226,000	2,440,377	109.6
	琴浦町	2,657,500	2,523,255	94.9
	計	8,501,000	8,055,686	94.8
西部地区	南部町	1,600,000	1,614,700	100.9
	伯耆町	1,549,000	1,285,150	83.0
	日吉津村	529,000	474,700	89.7
	大山町	2,370,500	2,305,750	97.3
	日南町	940,500	959,000	102.0
	日野町	600,500	606,500	101.0
	江府町	451,500	536,000	118.7
	計	8,041,000	7,781,800	96.8
郡地区計	22,607,000	21,951,586	97.1	
地区区分合計	83,310,000	76,148,936	91.4	

ウ 鳥取赤十字病院建設特別募金

鳥取赤十字病院では、さらなる赤十字病院としての機能強化、鳥取県東部医療圏の中核を担うため、2018年の完成予定で建て替え工事を進めており、この建設にかかる資金の一部に充当するための特別募金を実施しています。

募 集 期 間	平成25年10月1日～平成31年3月31日
実績額(平成25年度)	6,306,165円

エ 法人ダイレクトメール発送件数

(単位:件)

発送時期	件数
平成25年8月	1,408
平成25年12月(再募集)	679

オ 赤十字コインボックス

回収件数	96件
実績額	721,356円

(2)表彰

日本赤十字社は、定款の定めるところにより、多額の社資を納入された方や、社業について特別な功労のあった方に対し、表彰を行っています。

ア 社資功労

表彰区分	受章者数	
	個人(名)	法人(社)
特別社員	51	0
銀色有功章	3	15
金色有功章	6	3
功労感謝状	3	4
※厚生労働大臣感謝状	2	0
※紺綬褒章	0	0

イ 業務功労

(単位:人)

表彰区分	受章者数
(地区長) 金色有功章	1
(協賛委員) 金色有功章	1
(奉仕者) 金色有功章	3
(献血者) 銀色有功章	40
(献血者) 金色有功章	20
(献血推進者) 銀色有功章	1

(3)各種会議・研修

ア 全国赤十字大会

開催日	平成25年5月8日
会場	明治神宮会館(東京都)
参加者数	16人

イ 日赤地区長・事務担当者会議

開催日	平成26年1月10日
会場	ホテルセントパレス倉吉
参加者数	15人

ウ 日赤地区・分区新任事務担当者研修会

開催日	平成25年4月19日
会場	中部総合事務所
参加者数	8人

エ 日赤各地区主催社資募集説明会

地区名	開催日	備考
倉吉市地区	平成25年4月18日	(資料提供のみ)
境港市地区	平成25年4月24日	(資料提供のみ)
米子市地区	平成25年5月23日	
鳥取市地区	平成26年2月20日	※平成26年度社資募集
東部地区	平成26年2月27日	//
中部地区	平成26年2月28日	//
西部地区	平成26年2月28日	//

(4) 鳥取県赤十字有功会

鳥取県赤十字有功会は、紺綬褒章あるいは有功章を受章された人々で組織され、赤十字事業の側面的支援と会員相互の親睦を図るため、次のとおり事業を実施しました。

会員数	個人(89名)、法人(156社)
会議関係	第38回総会 平成25年6月24日 (於 皆生グランドホテル天水) 29名出席
	役員会 平成26年3月10日 (於 ホテルハーベストイン米子) 役員12名出席
支部事業への助成	仲間づくり運動 20件 7,190,000円
	献血事業助成(献血運動推進月間中の献血者への記念品)
	青少年赤十字事業助成(青少年赤十字トレーニングセンター参加者への記念品) 救急法等講習普及事業助成(ワールド・ファーストエイド・デー・イベント来場粗品)
大会関係	全国赤十字大会(東京都) 1名出席
	日赤紺綬・有功会会長協議会総会(宮城県) 会長、支部事務局長出席
広報関係	会報紙「有功会とっとり」第8号発行(年1回)
	赤十字新聞を全会員宛送付(月1回)
	赤十字年間ポスターを法人会員宛送付
親睦事業	親睦旅行「伊勢神宮、和歌山と赤十字ゆかりの地」23名参加 (平成26年3月31日現在)

8 広報活動

各地域でのイベントや広報媒体等を通じて、赤十字の理念や活動を広報しています。

(1) 赤十字運動月間

5月の赤十字運動月間、並びに5月8日の世界赤十字デーを、人間の生命と尊厳を守る赤十字運動の意義の再確認と、その活動と価値観をより多くの人々に伝える機会として捉え、一人でも多くの県民の皆さまに赤十字の活動を理解していただき、事業資金のご協力をお願いしています。

期 間	平成25年5月1日～31日
内 容	赤十字奉仕団協力のもと、県内各地において様々なPR活動を実施 ・街頭キャンペーン(広告入りポケットティッシュの配付) ・広報車、防災無線などのアナウンス ・地域の団体や学校を訪問 等

(2) 広報

ア 広報紙の発行

広 報 紙 名	赤十字とっとり
発 行 日	平成25年5月1日
発 行 部 数	200,000部
配 布 先	県内全戸配布

イ 支部作成広報資材による PR

品 名	広告入りポケットティッシュ
個 数	50,000個

ウ 報道機関等による CM 放送協力

C M 素 材	本社作成テレビスポットの放映
協力テレビ局	日本海テレビ、山陰放送、山陰中央テレビ、鳥取中央有線放送、 伯耆町ケーブルテレビ、岩美町ケーブルテレビ、 日吉津村ケーブルテレビ、南部町ケーブルテレビ 計8局
協カラジオ局	山陰放送、FM山陰 計2局
そ の 他	県内の大型液晶設置パチンコ店でのCM放送を依頼 (協力:鳥取県遊技業協同組合様)

エ 循環バス等の車内広告(ポスター掲示)

期 間	平成25年5月(1ヶ月間)
掲 出 先	鳥取市(くる梨)、米子市(だんだんバス、どんぐりコロコロ)、境港市(はまる一ふバス)、南部町(南部町ふれあいバス)

オ 赤十字NEWSの配布

本社が毎月1日に発行。関係先に配布(鳥取県1,300部)

カ 支部ホームページ

閲 覧 者 数	52,153人
更 新 回 数	76回

9 評議員会及び監査

評議員会は、日本赤十字社定款第 71 条により、支部の重要な業務について審議し、または支部長の諮問に答えるほか、本社代議員・支部長・副支部長及び監査委員の選出にあたることになっています。

(1) 評議員会

(単位:人)				
	開催日	場所	出席者数	議 事
第86回	平成25年6月12日	白兔会館 (鳥取市)	評議員 13 代議員 2 監査委員 2 支部長 1 職員 12 合計 30	・平成24年度事業 報告及び歳入歳出 決算について ・病院建設について
第87回	平成26年1月31日	とりぎん文化会 館 (鳥取市)	評議員 14 代議員 1 監査委員 2 支部長 1 職員 12 合計 30	・平成26年度事業 計画(案)及び歳入 歳出予算(案)につ いて ・日本赤十字社鳥 取県支部役員の選 出について

(2) 監査

平成 24 年度支部一般会計及び各施設特別会計の歳入・歳出決算監査が以下のとおり実施されました。

ア 事務監査(税理士による監査)

期日	施設名
平成25年5月17日	日本赤十字社鳥取県支部
平成25年5月21～22日	鳥取赤十字病院

イ 本監査(支部監査委員による監査)

期日	施設名
平成25年5月29日	日本赤十字社鳥取県支部、鳥取赤十字病院

※支部役員及び評議員は、付録参照

10 医療事業

県内に鳥取赤十字病院を設置し、人道・博愛の心をもって安全で良質な医療を提供し、地域の皆様に信頼される病院を目標としており、地域における中核的な医療機関として、『市街地活性化に寄与するとともに市民の健康を守る』、『病々連携において機能分担を担った急性期医療の展開』、『赤十字の使命としての災害対応、市民への啓発活動』といった役割を果たし、住民の健康と福祉の向上に貢献しています。

(1) 鳥取赤十字病院の概要(平成25年4月1日現在)

開設年月日	大正4年4月
診療科目	内科、循環器科、神経内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、ペインクリニック、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科、リウマチ科

(2) 診療状況

		入院	外来
年間稼働日		365日	243日
取扱患者数	新患者	6,728人	15,040人
	延数	115,460人	151,464人
1日平均患者数		316.3人	623.3人
平均在院日数		16.2日	
病床利用率		72.2%	
1日当たり入院診療収益		46,986円	11,301円

(3) 主な取り組み

ア 電子カルテシステム導入

平成26年2月23日から入院・救急外来・部門、翌24日から外来・その他部署で本稼働しました。

イ 災害救護体制の対応と強化

鳥取県東部の「災害拠点病院」の指定医療機関として、災害発生時の体制整備を推進しており、災害救護活動が必要な場合に備え、緊急出動ができるDMAT3チーム、医療救護班5個班を編成し、派遣要請に迅速に対応できるよう各種訓練・研修に参加して、能力向上に努めています。

- ・大規模な広域災害時に、傷病者の受入れなど迅速に対応できるよう、新たなマニュアルを作成しました。
- ・オートパルスなど、ドクターカー車載用の資機材の整備や装備の充実を図りました。
- ・平成 25 年 9 月 25 日、第 4 回鳥取赤十字病院災害医療フォーラムを「とりぎん文化会館」で開催しました。

ウ 地域医療支援病院の推進と地域医療連携の強化

「地域医療支援病院」の指定を受けており、その機能を果たしていくことが病院運営の命題の一つとなっています。

- ・地域医療支援病院運営協議会を院外委員の参加を得て、年 4 回開催し、病診連携、病々連携などの医療連携体制の強化、地域医療従事者への教育研修の推進、救急医療の充実などを推進しました。
- ・地域医療連携の充実を図るために、医療関係者、介護福祉施設関係者を対象とした地域連携懇話会を 2 回開催しました。

	開催日	場所
第10回地域連携懇話会	平成25年8月29日	とりぎん文化会館
第11回地域連携懇話会	平成26年3月5日	とりぎん文化会館

- ・平成 25 年度末の地域医療支援病院登録医、116 名(102 施設)。

エ 新病棟等増改築工事の取組み

病院を構成する建物は、老朽化・狭隘化が著しくなっていること、また、高齢化と社会情勢の変化に伴う地域から求められる診療機能の高度化にも、今後の確に対応するため、本件工事を計画することとなりました。

期 間	内 容
平成25年5月20日～10月4日	先行解体工事(旧看護師養成施設等の解体)
平成25年4月1日～12月7日	建設予定地の埋蔵文化財包蔵地(鳥取城薬研堀跡)に対する現地発掘調査の実施
平成 25 年 9 月 6 日	日本赤十字社本社にて入札
平成 25 年 9 月 26 日	工事請負契約締結
平成 25 年 12 月 12 日	起工式
平成 26 年 1 月 6 日	工事着工
平成 26 年 2 月 19 日～	新棟杭工事、引き続き基礎工事へ

11 血液事業

『安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律』(血液新法)が平成15年7月30日に施行され、国内自給の達成が基本理念に明記されるとともに、国及び地方公共団体等関係者の責務が規定されています。基本理念の達成に向けて国・県等と連携を強化しながら、より適正な事業運営に努め、血液製剤の安全性の向上と安定的な供給を図り、400mL献血と成分献血の推進に努めています。

また、今後の献血者の担い手となる若年層に対し、献血への理解を深めるための普及啓発に努めています。

(1) 鳥取県赤十字血液センター概要

施設名	開設
鳥取県赤十字血液センター	昭和40年1月
鳥取県赤十字血液センター米子出張所	昭和41年9月
鳥取県赤十字血液センター日吉津出張所	平成21年10月

※平成21年10月に西部出張所から米子出張所に改名

(2) 血液確保(献血)状況

平成25年度は、鳥取県内で延べ23,523人の方に献血のご協力を頂き、総献血量は9,117Lでした。

(単位:人)

種別	献血者数	
200mL献血	481	
400mL献血	16,859	
成分献血	PC(血小板)	5,479
	PPP(血漿)	704
合計	23,523	

(3) 血液(血液製剤)の供給状況

(単位:本)

種別	200mL製剤	400mL製剤	成分製剤	合計
赤血球	374	16,125		16,499
新鮮凍結血漿	72	4,111	355	4,538
血小板			4,494	4,494
合計	446	20,236	4,849	25,531

(4) 献血推進運動

ア 献血推進運動月間(7月)用広報資材の作製

(ア) 献血記念品(支部、鳥取県赤十字有功会)

品名	扇子
個数	1,640本

イ 献血推進功労団体等に対する支部長感謝状贈呈

開催日	平成25年7月5日
場所	血液センター研修室
表彰団体	鳥取信用金庫本店、株式会社正光鳥取工場、 聖和精機株式会社本社鳥取工場、医療法人育成会高島病院 フジッコフーズ株式会社、医療法人清和会垣田病院 株式会社明治製作所 計7団体

ウ 高校生献血研修会

鳥取県・日本赤十字社鳥取県支部・鳥取県赤十字血液センターの共催で、東部、中部、西部で各1回開催しました。高校生ボランティアが、献血の重要性について研修を受けた後、街頭献血会場において、献血の呼びかけやリーフレット配布などの活動を通じ、血液事業を体験しました。

(単位:人)

	東部	中部	西部
開催日	平成25年8月3日	平成25年7月15日	平成25年7月20日
場所	イオン鳥取北店	倉吉体育文化会館、 倉吉パープルタウン	イオンモール日吉津
参加者	14	20	33

12 会計

(1)平成 25 年度一般会計歳入・歳出決算

歳 入			
科 目	決算額(円)	構成比(%)	
社 資 収 入	104,954,630	81.6	
一 般 社 資 収 入	91,740,335	71.4	
{ 社 費 収 入	40,605,236	31.6	
{ 寄 付 金 等 収 入	47,792,188	37.2	
{ 指 定 事 業 社 資 収 入	3,342,911	2.6	
法 人 社 資 収 入	13,214,295	10.3	
{ 指 定 事 業 社 資 収 入	1,100,000	0.9	
{ そ の 他 社 資 収 入	12,114,295	9.4	
委 託 金 等 収 入	778,126	0.6	
補 助 金 及 び 交 付 金 収 入	5,879,746	4.6	
繰 入 金 収 入	929,192	0.7	
資 産 収 入	73,500	0.1	
雑 収 入	2,533,190	2.0	
前 年 度 繰 越 金	13,387,429	10.4	
合 計	128,535,813	100.0	

歳 出			
科 目	決算額(円)	構成比(%)	
災 害 救 護 事 業 費	9,206,076	8.0	
社 会 活 動 費	20,385,916	17.6	
国 際 活 動 費	950,232	0.8	
指 定 事 業 地 方 振 興 費	3,342,911	2.9	
地 区 分 区 交 付 金 支 出	10,644,760	9.2	
社 業 振 興 費	15,342,371	13.3	
基 盤 整 備 交 付 金 ・ 補 助 金 支 出	7,026,165	6.1	
積 立 金 支 出	9,172,664	7.9	
総 務 管 理 費	24,030,649	20.8	
資 産 取 得 及 び 資 産 管 理 費	511,570	0.4	
本 社 送 納 金 支 出	15,076,757	13.0	
予 備 費	0	0	
合 計	115,690,071	100.0	

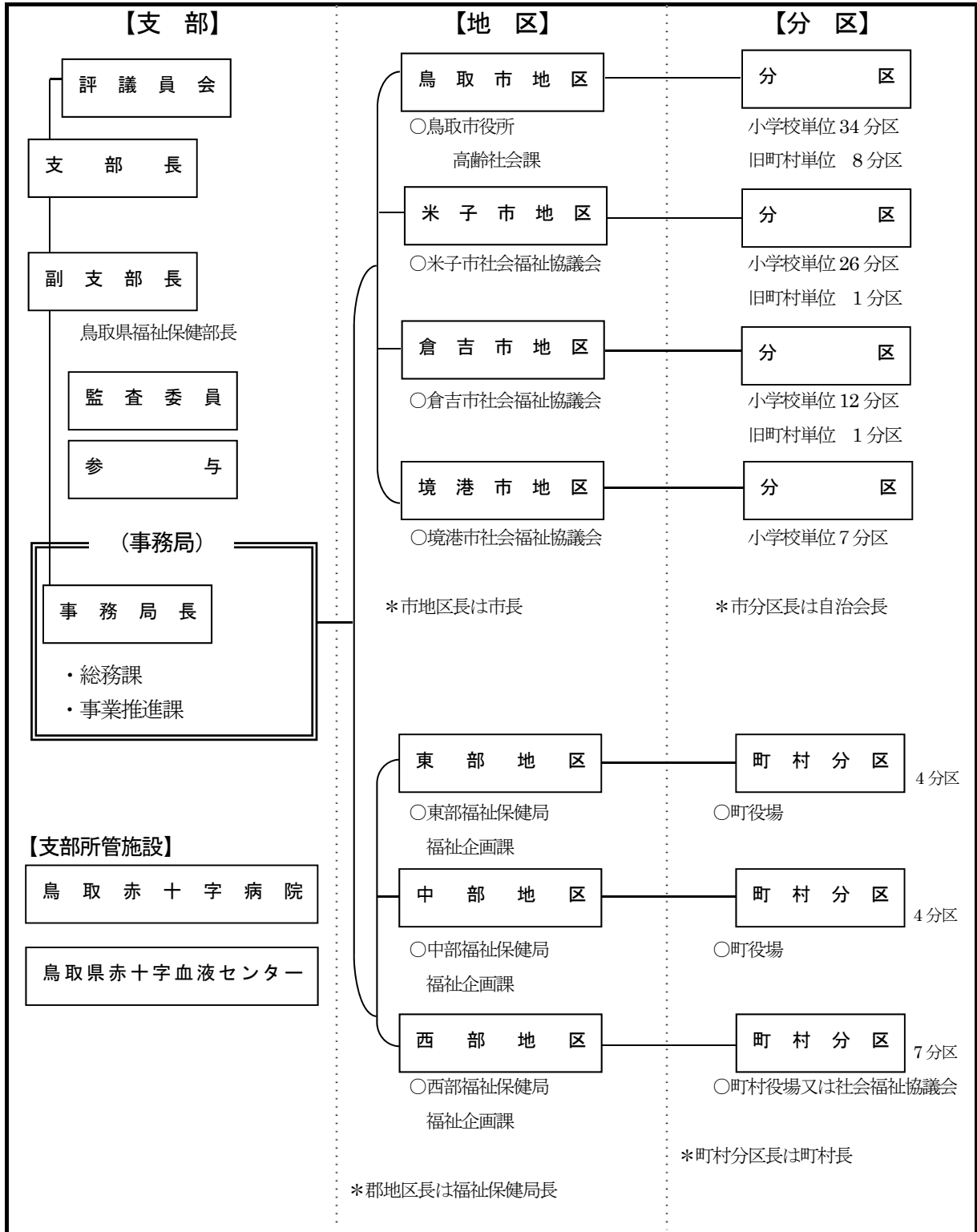
歳入歳出差引額: 12,845,742 円

(2)平成 25 年度医療施設特別会計歳入・歳出決算

科 目	決算額(円)
医 業 収 益	7,507,265,759
医 業 費 用	7,199,463,838
医 業 事 業 損 益	307,801,921
医 業 外 収 益	161,967,804
医 業 外 費 用	239,196,884
医 業 外 損 益	△ 77,229,080
医 療 社 会 事 業 収 益	4,292,320
医 療 奉 仕 費 用	56,369,547
医 療 社 会 事 業 損 益	△ 52,077,227
特 別 利 益	3,247,746
特 別 損 失	204,432,508
特 別 損 益	△ 201,184,762
法 人 税 等	4,114,118
当 期 利 益 (損 失)	△ 26,803,266

日本赤十字社鳥取県支部組織図

平成25年4月1日現在



○は事務所

日本赤十字社鳥取県支部地区・分区一覽表

平成25年4月1日現在

【地 区】

地区名	郵便番号	住所	事務所	電話番号	ファックス
鳥取市地区	680-0845	鳥取市富安2-138-4	鳥取市役所 福祉保健部 高齢社会課	0857-20-3451	20-3404
米子市地区	683-0811	米子市錦町1-139-3 「ふれあいの里」	米子市社会福祉協議会	0859-23-5490	23-5495
倉吉市地区	682-0822	倉吉市葵町717-3 老人福祉センター内	倉吉市社会福祉協議会	0858-22-5248	22-5249
境港市地区	684-0043	境港市竹内町40	境港市社会福祉協議会	0859-45-6116	45-6146
東部地区	680-0901	鳥取市江津730	東部福祉保健局 福祉企画課	0857-22-5163	22-5669
中部地区	682-0802	倉吉市東巖城町2	中部福祉保健局 福祉企画課	0858-23-3122	23-4803
西部地区	683-0802	米子市東福原1-1-45	西部福祉保健局 福祉企画課	0859-31-9315	34-1392

【町村分区】

東 部 地 区		中 部 地 区		西 部 地 区	
分区名	事 務 所	分区名	事 務 所	分区名	事 務 所
岩美町分区	岩美町役場 福祉課	湯梨浜町分区	湯梨浜町役場 総合福祉課	南部町分区	南部町役場 健康福祉課
八頭町分区	八頭町役場 福祉環境課	三朝町分区	三朝町役場 町民課	伯耆町分区	伯耆町役場 福祉課
若桜町分区	若桜町役場 町民福祉課	北栄町分区	北栄町役場 福祉課	日吉津村分区	日吉津村役場 住民課
智頭町分区	智頭町役場 福祉課	琴浦町分区	琴浦町役場 健康福祉課	大山町分区	大山町役場 住民生活課
				日南町分区	日南町社会福祉協議会
				日野町分区	日野町社会福祉協議会
				江府町分区	江府町役場 福祉保健課

日本赤十字社鳥取県支部役職員名簿

平成25年4月1日現在

1. 評議員 (20人)

選出区分		氏名	任期(3年)
支部長選出		野津一成	H25. 2. 14~H28. 2. 13
		伊藤美都夫	〃
		井木久博	〃
		吉田慶子	〃
地区選出	鳥取市	竹内功	〃
		岡崎友光	〃
		渡邊勘治郎	〃
		森重市	〃
	米子市	野坂康夫	〃
		後藤巖	〃
		杵築俊朗	〃
		福井徳明	〃
	倉吉市	石田耕太郎	〃
		岡野勝義	〃
	境港市	中村勝治	〃
	東部	小林昌司	〃
		宮脇正道	〃
	中部	山下一郎	〃
森田増範		〃	
西部	増原聡	〃	

2. 監査委員 (2人)

役職(公職)名	氏名	任期(3年)
鳥取県国民年金基金理事長	右近利夫	H25. 2. 14~H28. 2. 13
古町悟税理士事務所	古町悟	H23. 8. 1~H26. 7. 31

3. 本社関係

(1) 代議員 (2人)

役職(公職)名	氏名	任期(3年)
鳥取商工会議所名誉会頭	八村輝夫	H25. 2. 14~H28. 2. 13
岩美町長	榎本武利	〃

(2) 理事 (1人)

役職(公職)名	氏名	任期(3年)
鳥取商工会議所名誉会頭	八村輝夫	H25.4.1~H28.3.31

(3) 参与 (1人)

氏名	任期
畑耕司	H11.4.1~

4. 鳥取県支部関係

区分	役職	職業(公職)名	氏名	備考
日本赤十字社鳥取県支部	支部長		平林 鴻三	任期(3年) H23.4.13~H26.4.12 ※H17.4.13就任
〃	副支部長	鳥取県福祉保健部長	松田 佐恵子	任期(3年) H25.4.1~H28.3.31
〃	参与	〃 福祉保健部 健康医療局長	藤井 秀樹	
		〃 福祉保健課長	中林 宏敬	
		〃 福祉保健課 総括・人財担当主事	東口 昌史	
〃	事務局長		尾田 一壽	
鳥取赤十字病院	院長		福島 明	
〃	事務部長		山田 藤三郎	
鳥取県赤十字血液センター	所長		佐々木 信之	
〃	事業部長		八木谷 誠	

日本赤十字社鳥取県支部現勢

平成25年度赤十字運動国際テーマ「Our world .Your move.」—人間を救うのは、人間だ。—

◎赤十字の基本原則・人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性 ◎ジュネーブ条約加盟国 194 カ国
◎国際赤十字・赤新月社連盟加盟国 188 カ国 (赤十字社 153、赤新月社 34、イスラエル・ガビデの赤盾社 1)

1 沿革 明治21年(1888) 1月11日委員部設立
明治28年(1895) 4月17日鳥取支部に改称
昭和27年(1952) 10月31日鳥取県支部に改称

2 社員 67,995人 (H24.9月末現在)

3 評議員 20人

4 代議員 2人 八村輝夫、榎本武利
理事 1人 八村輝夫

5 役員 (25.4.1現在)

支部長	副支部長	監査委員 (2人)
平林 鴻三	松田佐恵子	右近利夫、古町 悟

6 鳥取県支部 (25.4.1現在)

区分	人員等	備考
職員数	7人	
予算額	114,047千円	平成25年度
通信指令車	1台	
災害救援車	3台	

7 災害等救護 (25.3.31現在)

救護班 5個班 (要員:医師、薬剤師、看護師、主事 37人)(血液供給要員 3人)	
無線局 157.73MHz (にっせきとっとり)	24局
〃 415.2625MHz (せきじゅうじとっとり)	25局
救護車両	4台
災害等救護出動	0回
国内義援金額 (24年度) (うち、東日本大震災義援金)	19,181,351円 19,092,398円
配布救護物資 (24年度) (小災害) 27世帯 58名 (内訳:毛布66、緊急セット25、タオルセット27、鍋24)	

8 国際活動 (25.3.31現在)

区分	金額
アジア・大洋州 給水衛生キット支援事業	559,209円
海外救援金	91,000円
NHK海外たすけあい	2,849,717円

9 青少年赤十字 (25.3.31現在)

区分	加盟校数	加盟人数
幼稚園	2園	324人
保育園	1園	26人
小学校	6校	1,461人
中学校	5校	1,258人
高等学校	9校	65人
計	23校	3,134人

10 赤十字奉仕団 (24.5.20現在)

区分	団数	団員数
地域	38団	2,049人
青年	3団	80人
特殊	14団	389人
計	55団	2,518人

11 講習普及活動 (25.4.1現在)

区分	登録者数	
救急法	指導員 78人	救急員 890人 基礎修了 1,019人
水上安全法	指導員 25人	救助員(プール) 58人 (海) 54人
健康生活援護	指導員 16人	支援員 35人
幼児安全法	指導員 39人	支援員 36人

12 医療事業 (鳥取赤十字病院) (25.4.1現在)

区分	人員等	備考
職員数	607人	
ベッド数	438床	
予算額	7,727,934千円	平成25年度
入院患者数	312.2人	平成24年度
外来患者数	648.7人	1日当たり

13 血液事業

(鳥取県赤十字血液センター、米子出張所、日吉津出張所)
(25.4.1現在)

区分	人員等	備考
職員数	60人	献血推進員3名含
移動採血車	2台	
血液運搬車	7台	
予算額	795,707千円	平成25年度
成分献血	6,838人	平成24年度
200ml 献血	954人	
400ml 献血	15,928人	
献血者数計	23,720人	

14 施設・職員 (25.4.1現在)

区分	職員数	備考
県支部	7人	
病院	607人	
血液センター	60人	献血推進員3名含
計	674人	

15 会計 (平成25年度)

区分	予算額(千円)	備考
県支部	114,047	一般会計
病院	7,727,934	医療施設特別会計
血液センター	795,707	血液事業特別会計
計	8,637,688	

《鳥取県支部施設一覧》 ※平成25年4月1日現在

施設名	所在地	電話番号
日本赤十字社鳥取県支部	鳥取市東町1丁目271(県庁第二庁舎内)	0857-22-4466
鳥取赤十字病院	鳥取市尚徳町117	0857-24-8111
鳥取県赤十字血液センター	鳥取市江津370	0857-24-8101
鳥取県赤十字血液センター 米子出張所	米子市西町36-1 (鳥取大学医学部附属病院内)	0859-38-7194
鳥取県赤十字血液センター 日吉津出張所	日吉津村日吉津1160-1 イオンモール日吉津東館1F	0859-27-1724

平成25年度 事業年報

平成27年8月発行

発行所：日本赤十字社鳥取県支部

〒680 - 0011

鳥取市東町一丁目 271 (県庁第二庁舎)

電話 0857 - 22 - 4466

FAX 0857 - 29 - 3090

Eメール：redcross@tottori.jrc.or.jp

ホームページ：http://www.tottori.jrc.or.jp/